

● 第11回野外見学会のご報告 ●

南 寿 宏

第11回の野外見学会は、工石山の自然を取り上げました。晴天の11月7日（日）、工石山青少年の家前には20名の参加者が集まりました。今回の講師は、高知大学の松井透先生、^{せんない}蘚苔類の専門家です。筆者は、蘚苔類については全くの素人なので、当日の松井語録をもって、報告にかえます。素人ゆえに、事実誤認等があれば、ご教示ください。

「蘚苔類とは、苔類のことで、地衣類、つまり、かびの仲間と区別されます。」

「『人をコケにする』ということばがありますねえ。(松井先生、表情はおだやかながら、心中は?)」

「苔は、昼間は体を縮めて、水分の蒸発を防ぎます。そして、夜、車のガラスが夜露でぬれるでしょう。苔は、夜露を吸収することによって、水分を補給します。(雨が降らなければ苔は枯れるかという質問に対して)」

「苔はどこにでもいます。水中にもいますよ、水苔なんかは。海の中だけはいませんねえ。」

「えっ、維管束ですか？ 苔には維管束は発達していません。(シダ類とよく似た苔を観察しながら)」

「苔は、特定の岩石に付着するということはありません。根から積極的に養分を吸収するというわけではないですから。(この後、実験室で苔を栽培する話に移ったのだが、専門的で、筆者には要略不可能なので、省略。)」

今までと趣を異にする見学会でありましたが、感想を一言で言うと、自然の造形美に魅せられた1日でありました。至福の時を過ごせたといえ、大げさでありましょうか。日頃、我々の山登りというと、岩石ばかりに目が行き、折角の美しい花々に見向きもしないものでした。もったいないことをしていました。今回の見学会により、山歩きの楽しみが広がったように思います。

素人の全般的な外れのトンチンカンな質問にもていねいに答えてくださった松井先生に心から感謝して、報告を終了します。ありがとうございました。



工石山ドロマイト鉱山跡にて